

## 8-4-23 改定道路橋示方書連絡WG

### 1. 設置目的と組織

#### (1) 改定道路橋示方書連絡WG設置目的

国土交通省は道路橋示方書の改定作業を行ない、平成29年7月に通達、同11月に道路橋示方書・同解説が発刊された。

建設コンサルタンツ協会の会員が速やかに改定道路橋示方書の内容を理解し、調査・設計業務に反映させるためには、改定道路橋示方書の速やかな普及が望まれる。

このため、早期に改定道路橋示方書の改定のポイントと内容を周知すると共に、勉強会・講習会等を開催して会員の理解を深めることを目的として、本WGが設置された。

本WGは組織改編により、技術部会交通基盤委員会の下で、改定道路橋示方書連絡WGとして位置付けられた。設置目的と組織の構成は、従前と変わらない。

#### (2) 組織

委員長、副委員長は、道路協会道路橋示方書橋梁委員会委員または傘下の小委員会の委員。委員は、既存の委員会（本部統括技術委員会、支部技術委員会、道路橋技術相談窓口対応WG代表、公益活動WG、道路構造物専門委員会、設計ソフトウェア連絡WG）からも選出し、組織横断的な構成となっている。事務局：インフラ研（現道路橋技術相談窓口事務局）（委員19名、事務局除く）

### 2. 活動内容

令和4年度の改定道路橋示方書連絡WGは、以下の4つのテーマについて、検討を行った。

#### (1) 設計・計画便覧作成について

過年度、改定示方書の自主活動として、改定道路橋示方書改定内容を反映した照査マニュアルを作成した。照査に先立ち設計成果作成段階からこのマニュアルに示される照査項目を満たす成果作成のためには、何らかの参考図書が必要となる。そのため設計計画便覧の作成が日本道路協会橋梁委員会から求められ作成に取りかかっている。

#### (2) 道路橋示方書疑義事項の整理

道路橋示方書の条文に関する疑義事項は、道路橋技術相談窓口WGにより、質問受付け→建コン回答委員→国総研確認→質問者返却のルートがある。本活動は、H29道示を実務設計で適用する際に、なんとなく分かりづらい、もやもやする事項をWG委員から収集し、一般的な対応方法や考え方を整理した。本資料は、「H29道路橋示方書適用に関する疑義事項と参考資料集」として取り纏め、9月30日に公益活動WGへ提出した。本資料集は、共通編・鋼橋編・コンクリート橋編・下部工編・耐震設計編の5編から成る。掲載した質問数は以下のとおり。

共通編 10件、鋼橋編 51件、コンクリート編 49件、下部工編 32件、耐震設計編 42件  
合計 184件

12月26日に国総研に紹介するとともに、国総研へ確認すべき回答内容については、技術相談窓口のルートを通して、改めて回答を頂くこととした。改定道示WGに令和5年2月に暫定配布した。

#### (3) 建コン協代表示方書委員の選出

令和5年度末に示方書が改定される。道路協会橋梁委員会の構成が大きく変更されたことに伴い、建コン協代表各委員の所属確認と新規の追加募集を行った。新たな組織により令和5年度から活動が開始される。

#### (4) 講習会開催対応

道路協会より「道路示方書講習会資料集」が発刊されることに伴い、道路協会と共催で講習会を開催することが道路協会から提案された。建コン協会では、当WGと公益活動WGが共同して講習を担当することとした。講習内容は、「平成29年道路橋示方書に基づく道路橋の設計計算例」に関する講習会で使用したPPTを基本にその後明らかにされた留意点について説明予定することとした。

### 3. 次年度活動予定

新たな示方書改定の動向把握および対応、計画便覧作成に向け取り組んでいく。

(改定道路橋示方書連絡WGWG長 鈴木 泰之)